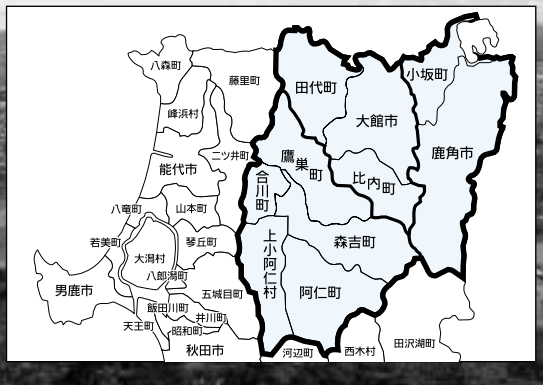
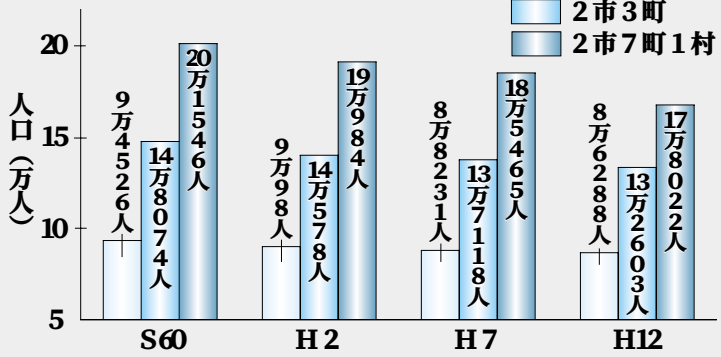
みんなで考えよう『市町村合併』No.3



今回は、本市が市町村合併をするとした場合に、その相手方として考えられる近隣市町村の人口や財政状況などをお知らせします。これらは、市町村合併を検討するにあたり、市町村の規模や勢いを知るための重要な要素となるものです。

資料：国勢調査



大館市と近隣市町村の面積・人口の推移・人口密度

市町村名	面　積	人　口				人口密度 (1㎢当たり、H12)
		S60	H2	H7	H12	
大館市	401.54㎢	71,794人	68,195人	67,214人	66,293人	165人
比内町	205.39㎢	13,683人	13,200人	12,713人	12,095人	59人
田代町	306.77㎢	9,049人	8,703人	8,304人	7,900人	26人
鹿角市	707.34㎢	44,499人	42,407人	41,184人	39,144人	55人
小坂町	178.00㎢	9,049人	8,073人	7,703人	7,171人	40人
鷹巣町	325.97㎢	24,624人	23,628人	23,034人	21,818人	67人
森吉町	341.88㎢	9,827人	8,952人	8,359人	7,806人	23人
阿仁町	371.92㎢	5,596人	5,112人	4,855人	4,443人	12人
合川町	112.80㎢	9,309人	8,968人	8,546人	7,983人	71人
上小阿仁村	256.82㎢	4,116人	3,746人	3,553人	3,369人	13人

人口の推移と人口密度

人口は市の勢いに大きな影響を与えます。合併後の市の人口がどのくらいになるのかは市のまちづくりに大きくかかわってきます。

平成12年の大館市・比内町・田代町（1市2町）の人口は約8万6千人、これに鹿角市・小坂町を加えた2市3町では約13万3千人、さらに鷹巣・阿仁地域の5町村を加えた2市7町1村では約17万8千人となります。

しかし、本市と同様近隣市町村も人口は減少しており、昭和60年から平成12年までの15年間に1市2町では約8千人(9％)、2市3町では約1万5千人(10％)、2市7町1村では約2万4千人(12％)が減少しています。

この減少傾向は今後も続くと見込まれ、地域経済の衰退やこれにともなう税収の減少につながり、幼稚園や学校などの運営にも影響を与えるものと予想されます。

また、人口と面積との関係では、面積（1㎢当たり人口密度）が1市2町では913・70㎢（約94人）、2市3町では1799・04㎢（約74人）、2市7町1村では3208・43㎢（約55人）となります。合併の規模を大きくするほど人口は増えますが、逆に人口密度は小さくなります。

財政状況

財政状況（歳入）を平成13年度決算見込みで見ると、本市の住民1人当たりの歳入総額は約36万7千円です。その内訳は自主財源である市税は27・3％、国からの普通地方交付税は26・5％、借金である市債は9・2％となっています。

近隣市町村は、総額ですべて本市を上回っており、多いところでは2・6倍となっています。また、一般的に市町村税の占める割合が低く、国からの普通地方交付税や借金である市町村債の占める割合が高いことから、財政力が弱いことが分かります。

財政指標

全国の市町村の財政状況を比較する指標として、財政力指数、経常収支比率、公債費負担比率があります。

財政力指数は、平均的水準で行政を行った場合に要する経費に対する市町村税などの自主財源の割